

スペースシャワー-TVが主催する、音楽とカルチャーの祭典「TOKYO MUSIC ODYSSEY 2017」終幕。オフィシャルサイトにてフォトギャラリー公開！ダイジェスト番組の放送も決定!!



日本最大の音楽専門チャンネル スペースシャワー-TVが主催する、“都市と音楽の未来”をテーマに、東京から発信する音楽とカルチャーの祭典「TOKYO MUSIC ODYSSEY 2017」。3/2(木)から1週間にわたって展開してきた本イベントは、3/8(水)に終幕致しました。3/3(金)は、音楽と映像とアートが一体となったライブイベント「SOUND & VISION」を、3/4(土)は、気鋭のアーティストが集結する「ALTERNATIVE ACADEMY」を、3/5(日)は、将来ブレイクが期待されるニューカマーアーティストによる「NEW FORCE」を、3/6(月)は選りすぐりの映像作品を臨場感あふれる高音質で上映する「MOVIE CURATION ～特上音響上映会～」を、そして3/7(火)には、アーティストとクリエイターに感謝と敬意を込め賞を贈る新しいアワード「SPACE SHOWER MUSIC AWARDS」をそれぞれ開催。また3/4(土)～3/6(月)、渋谷スペイン坂に出現した「TOKYO MUSIC ODYSSEY 2017」では「音楽と都市の未来」をテーマに、トークセッションやミニイベントなどを実施し、次世代の街やカルチャーを創る、ミュージシャン、クリエイターたちの作品、メッセージを発信致しました。この全イベントのフォトギャラリーを、本日より「TOKYO MUSIC ODYSSEY 2017」オフィシャルサイト(<https://tokyomusicodyssey.jp/>)にて公開！また3/30(木)には60分に凝縮したダイジェスト番組の放送も決定。1週間に渡る音楽とカルチャーの模様を是非ご覧下さい。

<開催概要>

『TOKYO MUSIC ODYSSEY 2017』

●2017.3.4[SAT]～3.6 [MON] 『SHIBUYA POP UP STUDIO』

「音楽と都市の未来」をテーマに、トークセッションやミニイベントなどを実施。

●2017/3/3 [FRI] 『SOUND&VISION』

“MUSIC×CREATIVE” をテーマにお届けする、音楽と映像とアートが一体となったライブイベント。

●2017/3/4 [SAT] 『ALTERNATIVE ACADEMY』

TOKYOから世界の音楽シーンに自信を持っておすすめする気鋭のアーティストが集結したオールナイトイベント。

●2017/3/5 [SUN] 『NEW FORCE』

スペースシャワー-TVが将来ブレイクが期待されるニューカマーを年間を通じてプッシュする企画。

●2017/3/6 [MON] 『MOVIE CURATION ～特上音響上映会～』

ライブやドキュメンタリーなどの選りすぐりの映像作品を、大画面とライブハウスならではの臨場感あふれる音響で上映。

●2017/3/7 [TUE] 『SPACE SHOWER MUSIC AWARDS』

スペースシャワー-TVの視点で2016年の音楽シーンを総括し、様々な音楽コンテンツで功績をあげたアーティストに、感謝と敬意を込め賞を贈るアワード。

<番組情報>

スペースシャワー-TVが、お送りした「TOKYOMUSIC ODYSSEY 2017」の模様を、ぎゅっと60分に凝縮してお届けします。

『TOKYO MUSIC ODYSSEY 2017 SPECIAL』

3/30(木)22:30～23:30(4月リピート放送あり)

TOKYO MUSIC ODYSSEY オフィシャルサイト <https://tokyomusicodyssey.jp/>

詳細は「トウキョウ ミュージック オデッセイ」で検索！

＜レポート＞

スペースシャワーTVが主催する音楽とカルチャーの祭典『TOKYO MUSIC ODYSSEY』が、3月2日から8日にかけて渋谷を拠点に開催された。「都市と音楽の未来」をテーマに掲げた同企画では、『SHIBUYA POP UP STUDIO』『SOUND & VISION』『ALTERNATIVE ACADEMY』『NEW FORCE』『MOVIE CURATION』『SPACE SHOWER MUSIC AWARDS』の計6つのプログラムが行われ、音楽とそこから派生するカルチャーを直に体験することができた。

まず、3月3日開催の、「MUSIC×CREATIVE」をテーマにした『SOUND & VISION』。きのご帝国×MITCH NAKANO、DAOKO×Kezzardrix+backspacetokyo、HIFANA×GRVJの3組が登場し、アーティストと映像作家がコラボを果たした。DAOKOのステージは、モーショングラフィックスやレーザーを使いながら、彼女の動きや歌詞にあわせて映像がリアルタイムで変化。DAOKO自身も映像アートの一部となったような、音楽と映像が連動したステージを見せた。またHIFANAは、繰り出すビートにあわせ、サンプラーを操る手元やアニメーションをスクリーンに映し出していく。その即興性が高いパフォーマンスで観客をヒートアップさせていった。一方、きのご帝国は、花をモチーフに女性を被写体とした映像をバックに「FLOWER GIRL」などスローな曲を披露。一本のショートムービーのようなストーリー性で、夢さと美しさを演出した。3組とも音楽と映像のタッグの組み方は違えど、音やリズムを体感させ、より濃い音楽体験をもたらすイベントだった。

cero、STUTS、Yogee New Waves、WONKらが出演した3月4日の『ALTERNATIVE ACADEMY』はオールナイトでの開催。DJアクトも加わり、夜通し朝まで音楽が鳴り続けた。「TOKYOから世界の音楽シーンへ」というテーマの通り、今東京で一番ホットなアーティストが一堂に会し、最上級のライブを見せる。そして、その音楽を浴びた観客も自由に歓声をあげながら踊り、それを受けたステージ上のパフォーマンスもさらに向上していく。その相乗効果によって、会場にひとつのグルーブが生まれていたようにも感じられた。出演アーティストはみな、独自の表現を追求することで、今の新しいロックシーンの一部を担っている。ここから何かが始まるような可能性と熱気が渦巻く、刺激的な一夜となった。

3月5日に行われた『NEW FORCE』には、ニューカマーアーティストが揃った。紅一点のボーカルを真ん中に据え、ギターポップ～シューゲイザーを志向するFor Tracy Hyde。可愛らしくもヒリヒリとしたインディポップを鳴らすThe Wisely Brothers。ギターとドラムの二人編成で、クセになるグルーブを練り上げるドミコ。ヒップホップ的な矢継ぎ早のリリックを歌い上げ、ディーバとしての存在感も放つiri。エレクトロニックR&Bサウンドで、ソウルフルな歌声を披露した向井太一。同世代でありながらも、編成やジャンルは様々。今の音楽シーンを象徴するような多様性を感じるライブだった。『NEW FORCE』の出演者は、ここから一年間スペースシャワーTVの一押しアーティストとして各所で活動するというが、彼らの今後の動向にも注目したい。

また同じく3月4日から6日には、渋谷スペイン坂のGALLERY X BY PARCOにて『SHIBUYA POP UP STUDIO』が開催され、トークセッションやミニイベントが行われた。“チームPerfume”としても活躍する真鍋大度とMIKIKOは、リオ五輪閉会式『トーキョーショー』の裏側や作品の作り方をテーマにトーク。Zeebra×オカモトレイジ (OKAMOTO'S) は、ヒップホップシーンの変化や風営法改正といったナイトカルチャーの重要性について熱い議論を交わした。また、宇多田ヒカルやSuchmosのMVを手がける若手映像作家であるdutch_tokyo (山田健人/yahyel) は、映像制作を志すようになった経緯や、自身の今後の展望について語った。音楽を接点に、様々な分野のクリエイションが合流し、互いに刺激を与え合いながら表現の純度を高めていく今の音楽シーン。彼らが放つメッセージはどれもポジティブで、これから訪れる「都市と音楽の未来」が楽しみになる話を聞くことができた。

3月6日の『MOVIE CURATION～特上音響上映会～』は、Fishmans、コーネリアス、DEV LARGEのライブやドキュメンタリー映像を、渋谷WWWの音響環境で、臨場感ある音と大画面で上映。3アーティストとも1990年代に活躍し、他に類を見ないオリジナルな立ち位置を築き、今活躍するミュージシャンたちにも多大な影響を与えた。上映後には馴染みの深いアーティストや関係者によるトークショーも行われ、人物像や裏話など貴重な話が明かされた。

そして3月7日に国際フォーラムで行われたのが『SPACE SHOWER MUSIC AWARDS』だ。スペースシャワーTVの視点で2016年の音楽シーンを総括し、功績をあげたアーティストとクリエイターを表彰。また、きゃりーぱみゅぱみゅ、クリープハイプ、Suchmos、高橋 優、平井堅、レキシはライブパフォーマンスを披露し会場を大いに盛り上げた。最優秀アーティストに選ばれたのはRADWIMPS、ユーザー投票によって決定するPEOPLE'S CHOICEは[Alexandros]、その他星野源や宇多田ヒカルらも受賞。多くのヒット曲が生まれ、またロックバンドの音楽もお茶の間へと届いた2016年の活気を映し出すような受賞結果となった。

様々な視点から、今の音楽シーンの充実を体現し、その盛り上がりを感じることができた『TOKYO MUSIC ODYSSEY』。2020年の東京五輪に向けて、そしておそらくその先も、渋谷をはじめ東京の街は変わり続けていくだろう。そこで音楽カルチャーはどう根付き、街と共に発展していくのだろうか。そんな未来への期待を残し、1週間にわたるイベントは幕を下ろした。

TOKYO MUSIC ODYSSEY オフィシャルサイト <https://tokyomusicodyssey.jp/>

詳細は「トウキョウ ミュージック オデッセイ」で検索！

＜本件に関するお問い合わせ先＞

株式会社スペースシャワーネットワーク コンテンツマーケティング部

TEL:03-3585-3544 FAX:03-3585-3215 <http://www.spaceshowertv.com/>

担当:中澤久美子 knakazawa@spaceshower.net